

産業廃棄物処理場跡地

産業廃棄物処理場跡地の礫層

正法寺脇から万葉ラインを登っていくと、アーチェリー場跡地に出ます。この裏の市道を下っていくと、沢の一番低いところに産業廃棄物処理場跡地があります。ここでは、高位段丘堆積物の呉羽山礫層の露頭を見ることができます。露頭内には、下の写真のような角が取れて丸くなった石がたくさんあります。形が丸いことから川の流れによって運ばれ、この場所に堆積したことが想像できます。

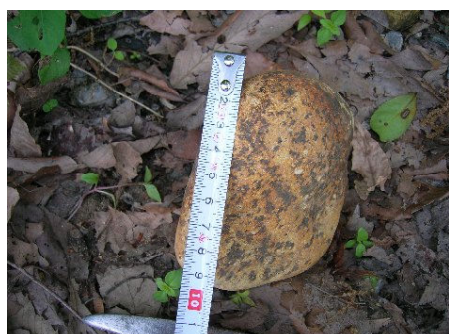
また、この丸い礫は風化を受けたいへんもろくなっています。これは、造岩鉱物（長石、黒雲母など）から、ClやNa、Mg、Ca、K等が化学的風化作用によって水に溶け、溶出したためです。造岩鉱物の中の長石は、化学的風化作用によって「カオリナイト」と呼ばれる白色粘土物質に変化していきます。カオリナイトは、磁器用粘土として使われる他、紙の漂白や女性用の化粧品などにも用いられています。



産業廃棄物処理場跡地の露頭



露頭の拡大写真



風化した花崗岩



風化した花崗岩の断面



風化した安山岩の断面

二上万葉ライン沿いの小規模断層

国道415号線を伏木古府で二上山方向へ曲がり、正法寺脇を抜けると、二上万葉ラインに入ります。二上万葉ライン沿いには二上シルト岩層が分布しており、ところどころに小規模な断層がいくつか見られます。層理面が見えないのですが、二上山ドーム隆起に伴って地層全体が引っ張られることらよってできた逆断層でないかと考えられます。

